4A トロピカル新聞

2019.12.26(木) 発行

和歌山大学教育学部附属小学校 4年A組

スムージーで和歌山PR！

①〈課題〉

私たちは、和歌山の野菜・果物のせっしゅ量を上げるという課題の解決策として、ねんりんピックで和歌山の野菜や果物をPRしようと思いました。その中でチラシやポスターをつくりました。

②〈よかったこと〉

ねんりんピックにいってよかったことがたくさんありました。一番多かった意見は、チラシをくばったとき、初対面でも気軽に話せたでした。他には、「県外の人とも関わり合えた」や、「ら年関係のものとも話せた」という意見がありました。全体的にまとめると、「コミュニケーションがふえた」という感じです。そのほかにも、和歌山の野菜や果物あるのんでもらえたことがしゃうかくでした。

③〈ポスター・チラシ〉

ポスターやチラシで、工夫した所は、ポスターを見て、「飲みに行こう！」と思ってもらえるように、ドはくりで書くことを意識しました。また、字を大きくして、見やすくしたりしました。とくにくろうしたのが、いちばん伝えたいことを大きく書いて、字に強弱をつけたことをくろうしました。

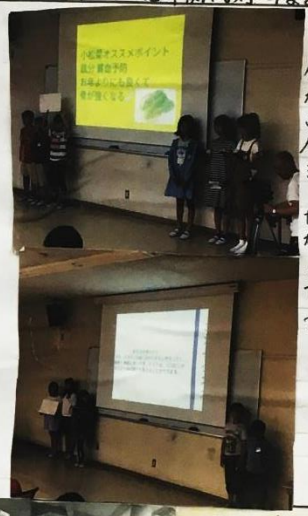
④〈PR〉

くばる時には、夫を二つしました。一つ目は、声に強弱をつけた所です。ねんりんピックは、他のお店もたくさんでていたので、声を大きくしないとお客さんに聞こえないからです。二つ目は、スムージーを配っている子と、チラシを配っている子で配ったことです。2人で配るとスムージーの説明をわかりやすくできるからです。

⑤〈いってみて〉

ねんりんピックは、たくさん人が来て、チラシを配る時、スムージーを配る時、どちらも大変でした。配っている時に、「おいしいね」などと言われると、「ありがとう」、「うれしかった」です。私たちは、スムージーを飲んでもらって、野菜のせっしゅ量もふやし、笑顔になってほしいという課題をもってせいしたので、その課題をたっせいできたと思います。スムージーを飲んで、野菜のよさもしってもらえたけど、1日だけだったので、もっと和歌山の人の野菜のせっしゅ量を増やしたいです。そのためにこれからもいろいろなとりくみを、続けていきます。

和歌山PRプレゼン



左の写真は、プレゼンの様子です。次は、和歌山のいい所です。和歌山の果物、野菜は、栄養そのほうふにふくまれていて、体の健康を整えてくれているので、和歌山の人たちは、かぜをひきにくくなっています。和歌山のみかんは、生産量全国一位と多いだけではなく、みかんを育てる気候に適していて、糖度が高い、おいしいみかんがあります。

苦労したこと

プレゼンで苦労したことは、資料作りの時間が、あまり多くとれなかったことです。短時間で見やすい資料を作ったり、プレゼンでの話し方を考えたりすることが苦労しました。国語の学習でプレゼンのしかたを学び、それを活用しました。

次にむけての課題

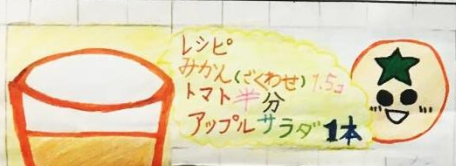
今回のプレゼンから学んで、次にするときに変えると良くなることを調べました。

・きんちょうして言いまちがえないようにすること。

・プレゼンの一番伝えたいことも。とは、きり言うこと。

・スムージーの資料に、このスムージーを作ってどうしたいかを具体的に書くこと。

調べると、いろいろなかいぜん点がたくさんありました。クラスの人は、次につなげて、上手なプレゼンができるようになりたいんが、多くいることがわかりました。



261杯完売！

わたしたちの学校には秋に、おく山まつりという行事があります。この行事は、色々なお店やゲームコーナーがあって、楽しい行事です。そこでわたしたちは、おく山まつりで自分たちが、考えたスムージーを売ったりチラシをくばったりしました。工夫したことや、良かったことは、スムージーを飲んでもらえるか、人にきいてもらえるか、とくに、和歌山の人は、いろいろなみかんを中心とした果物の味や栄養など幅広い分野のことです。また、私たちが質問したことも、わしく教えくれました。分かったことがいくつもありました。一つ目は果物を作るときのぎゃくのことです。たとえば、台風が来たときにさいばいしてるみかんなど果物がおちてしまいます。今年は台風が多かったので、さらに大変だ、物が食べてもらえるかなという問題もあります。とくに、和歌山の人は果物の摂取量が低いからです。他には、スムージーの作りのヒントになったことも、あります。たとえばスムージーにあう果物を教えてくれました。ミカンと決めてあっても、いろいろな品種があるのでなかなか決められませんでした。けれど豊嶋の人はすぐに教えてくれました。農家の人が教えてくれたことを活かして、スムージーを作れたので良かったと思います。

スムージーのかんせいまでの道のり

〈和歌山の摂取量〉

和歌山の野菜の摂取量は女性5位、男性3位です。和歌山は低く、それをすこしでも上げるためにスムージー作りに取りくみました!!

〈スムージーでくろうしたこと〉

味とバランスのスムージーの組み合わせです。これは子供から大人まで飲めるスムージーを作ろうと思ったので、甘すぎず、すっぱすぎない味を作るのが大変でした。そしてえいようのバランスが良いスムージーにするために、ミカンのビタミン、トマトのリコピンを入れたのが一つの工夫です。

〈スムージー作りでよかったこと〉

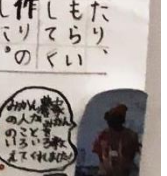
スムージー作りでよかったことで、一番は、グループみんなで一つのスムージーを完成させることができたことです。

二つ目は、色々な人にこのスムージーを飲んでもらって「おいしい」と言ってくれてすごくうれしかったです。

〈次の課題〉

このスムージーを作って、また次にこんなことがあったら和歌山の摂取量をふやして生産量と摂取量を一位たするのが次の課題です。

農家と果物のヒミツ！

スムージーを作るにあたり、農家の人にも協力をしてもらいました。一時間ほどお話をしてくれた内容は、スムージー作りの大きな前進につながりました。

農家の人が話してくれた内容は